



新年のごあいさつ

担当理事 牛尾剛士



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかな新春を迎えられたことと存じます。

昨年は4月1日に日本医師会に唐澤執行部が誕生し、診療報酬や介護保険改定への対応等に追われている中、医療制度改革関連法案が6月14日可決されました。その後これに関する政省令が次々と発令され、また医師・看護師・助産師不足、医師の偏在、勤務医の労働環境問題、療養病床削減からの医療難民・介護難民発生などの課題を持ったまま新年を迎えました。まさに「医療崩壊」を予感させる厳しい年明けとなりました。

当検査センターにおきましては、厳しい状況ながら、以前から品質とコストとのバランスを考慮した内部改善を継続的に取り組んでいます。会員の先生方へは、迅速な検査結果報告が可能なDDライト（ドクターズ・デスク・ライト）の展開、また、ORCAの導入支援等通じて、IT化支援を積極的に行っております。さらに、感染症情報発信、症例報告シリーズ展開、出前勉強会の実施等々の会員サービスの充実に努めているところであります。

今後、検査再発見シリーズの発行や学術データインフォメーション課へのお問い合わせ情報の公開を実施していく予定です。また、以前より臨床甲状腺研究会を立ち上げ、潜在性甲状腺機能低下症の患者の掘り起こしを行ってまいりました。この研究会で得られました知見をもとに、認知症への対応を実施すべく、現在準備を行っております。

他の検査センターとは異なり、精度管理やサービスの充実により会員の先生方に安心をお届けできる検査センターとして、引き続き臨床現場に密着した各種講演会の開催、出前勉強会の充実や診療支援（疾患プロフィール etc.）などを通して、会員の先生方に当検査センターを選んでいただけるようさらなる努力をいたします。

ご意見やご希望等ありましたら遠慮なくお申し付けください。

本年もどうかお引き立ていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。